

1 全国学力・学習状況調査

小・中共通

項目	課題	解決の方向性
国語	○「読む能力」を問う設問では、市や県と比べて全体的に正答率が低い。漢字の読み・書きも、全国に比べて大幅に低い正答率になる設問が複数あった。(承知・あびる・鳥のす)全体として無回答率が高いという結果となり、ここでも読解力の不足がかかわっていると考えられる。	○漢字のノートを使い自分で新出漢字をまとめる活動と、10問のミニテストを継続して行っている。50問の大テストも満点を取るまで粘り強く指導している。毎週の朝自習の時間、全校一斉に漢字練習に取り組んでいるが、帰りの会前の時間等、さらに全校一斉に取り組む機会をもつことを検討する。
	○「書く」(内容を整理しながら書く)についての設問は24, 2%の正答率であった。県も全国も正答率は低くなっているが、本校の大きな課題として 今回の調査で再確認できた。	○教科書の工夫された文章構成や、表現を教科書で確認してから自分の作文に活かす活動を行っていく。部分に分けてスモールステップで書かせるなど工夫していきたい。…『平和のとりでを築く』『この絵わたしはこう見る』など。視写の取り組みについて、現在学校全体で取り組んではいないが、今回の調査結果を受けて今後取り組んでいくことを検討する。
算数(数学)	○小数の減法(6.79-0.8:位にズレあり)や図形の特徴、割合に関する設問の正答率は全国に比べて大幅に低い結果であった。(割合は全国も低くなっていた)	○小数の計算…朝自習などを通して基本的な計算を繰り返し練習していく。図形…6年生の角柱と円柱の体積およびその面積の単元では今まで習った一通りの図形の特徴や面積の出し方の公式の復習を行った。速さの表し方の学習では、1あたりの量について、比と比の値の単元では比べられる量、もとにする量、割合について考えさせた。今後も既習事項を想起させながら、学習を進めていきたい。
	○課題として示された内容になる理由を記述する設問(概数を用いた見積もり、面積)の正答率は、10%程度と低い結果であった。(県及び全国の正答率も低かった)	○発表する際、解答に至った思考過程も発表させたり、ペアになって解き方を紹介し合う活動を取り入れている。解答にたどり着くまでのスモールステップの発問も大切に授業を進めていきたい。
理科	○実験の結果(植物の成長と日光の関係、水の温度と砂糖が水に溶ける量との関係を示したグラフ)を基に考察して、その内容を記述する設問の正答率は、30%以下と低い結果であった。	○実験を行った際「結果」と、その結果から「わかったこと」をしっかりとまとめることができるよう、ワークシートやICT機器を積極的に活用し、「結果」から「わかったこと」へのつながりを重視しながら指導する。そして、全児童が実験の結果を共有できるよう、発表の機会を多く与えるように配慮し、言語活動の充実を通し理解が深まるよう留意する。
質問紙調査	(20)家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか … どちらかといえば+していない = 約40% (30)新聞を読んでいますか … どちらかといえば+読んでいない = 約85% (45)学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか … どちらかといえば+難しい = 約40%	○家庭学習の習慣をつけること、それを充実させることは学力向上の必須条件である。それには保護者への啓発、理解推進は欠かせない。学校からの発信、懇談会での話し合い等手だてを講じていく。また、児童が意欲的に、しっかりと学習に取り組めるよう直接のはたらきかけも行っていく。読解力や表現力(文章作成)に関する課題が調査で明らかになったが、図書や新聞、各種資料等に親しみ、積極的読み込み学んでいく姿勢、意欲を育てていきたい。また、学習のねらいを達成するに当たって言語活動の充実を図り、話す・聞く、読む、書く、それぞれの学習を意図的に進めていきたい。

2 埼玉県学力・学習状況調査

小学校

項目	課題	解決の方向性
国語	<p>第4学年</p> <p>○評価の観点4区分の平均正答率は、志木市や県のそれと比べると20%以上（言語は10%程度）低く、全体的な底上げが必要である。特に、「書く」（理由をあげながら自分の考えを明確に書く）の正答率は6%と低く、今後重点的に取り組んでいかなければならないだろう。</p> <p>○「読む能力」を問う設問では、全体的に正答率が低い。特に、主語・述語の関係、接続語や指示語の理解に関しては10%程度という結果であった。</p>	<p>○読解力を問う設問において、特に主語―述語の関係をとらえることができない児童がたぐさいた。普段の授業の中でそれを強く意識できるように指導していくことが大切である。また、書かれている情報を的確にとらえる力、目的に応じ、要旨をとらえる力を重要視し、ていねいに指導していく必要がある。物語文及び説明文について、学期の重点を定め、今回の弱点をカバーしていくこともねらったていねいな指導、授業展開をしていかなければならない。国語に限らず理由を話したり、書いたりする活動を意識して行うようにし、書かれていることを丁寧に読む習慣を身につけさせる。</p> <p>○「書く」についての設問の正答率も4～6年で厳しい結果となった。各学年、児童の実態に応じて「まとめて整理して書く」という活動、例えば新聞づくり、総合等での発表資料作成などに積極的に取り組み、指導を積み重ねていく。また、文章と図やグラフなどと関係づけて、自分の考えをまとめる、定型のスタイルを押さえて表現するといったトレーニングも行う必要がある。</p>
	<p>第5学年</p> <p>○「読む能力」を問う設問では、全体的に正答率が低い。特に、事実と要点の読み取り、要旨や段落相互の関係をとらえるといった設問は50パーセント程度の正答率で、市や県と比べて大幅に低かった。</p> <p>○「書く」（理由や例をあげながら整理して書く）設問は25%の正答率であった。無回答率も50%と高かった。スキルの課題とともに苦手意識の高さから取り組めないという実態もあるか。</p>	
	<p>第6学年</p> <p>○「読む能力」を問う設問では、市や県と比べて全体的に正答率が低い。特に、文の構成の理解（主述の関係）を問う設問は正答する児童が0だった。（市・県も正答率低）</p> <p>○「書く」（事実と意見を区別して書く）設問は21、5%の正答率であった。無回答率は17%。やはり苦手意識の高さから取り組めないという実態もあるか。</p>	
算数	<p>第4学年</p> <p>○領域4区分の平均正答率は、志木市や県のそれと比べて10～20%低い結果であった。また、評価の観点の区分においては、「数学的な考え方」に関する正答率が「技能」及び「知識・理解」に比べて格段に低かった。異分母分数の大小の比較や、数直線の理解を問う設問の正答率は20%以下と低かった。また、棒グラフの読み取りや図形の性質、時刻の計算、除法の文章題等の設問の正答率も、市や県と比べて30%程低かった。</p>	<p>○図形に関する学習については、ねらいを明確にしたわかりやすい活動を通して理解を深めるようにする。分数の計算は正答率がほぼ平均値に届き、直前の5年時のまとめの学習、6年のスタート時の取り組みが功を奏したと考えられる。やはり学習内容の定着は大きな課題であり、各学年での繰り返し取り組み、復習の機会をたくさんもつことができるよう、各学年やブロック、学校全体においても共通理解を図り、実践していく。</p> <p>○算数においても、問題を読み取る力が必要となる。また、四則計算や面積等の本質的な意味の理解ができていなければ応用問題には取り組めないで、それを意識して指導する。四則計算は基本中の基本なので、指導を徹底していく。解き方のみでなく、考え方についてじっくりと考えさせる工夫をする。</p>
	<p>第5学年</p> <p>○小数の加法減法や3桁×(÷)2桁の計算など、基本的な四則計算の正答率は50%程度と厳しい結果であった。2桁÷2桁の余りのある除法は正答率30%程度と、県より大幅に下回った。計算の工夫、面積の感覚を問う設問の正答率は10%程度と低かった。（県も同様）また、分数の大小や図形・角度、折れ線グラフの読み方、面積を求める等の設問の正答率も、市や県と比べて20～30%程低かった。</p>	
	<p>第6学年</p> <p>○小数の加法（繰り上がりあり）や3桁÷2桁の計算など、基本的な四則計算の正答率は県より大幅に下回った。4、5年生同様、グラフの読み方を問う設問の正答率はとても低かった。（県も同様）また、面積や記号を用いた式、小数と分数の関係、単位量当たりの大きさに関する設問の正答率も、市や県と比べて20%程度低かった。</p>	
質問紙調査	<p>○質問番号(30～)・(昨年の)学級での生活は楽しかったですか・学校での生活には満足していましたか・学校の先生たちは自分のよいところを認めてくれましたか等の質問事項では、選択肢3及び4の否定的な内容（どちらかといえば）～なかったを回答する児童の割合が、市や県のそれと比較して少々高いという結果であった。</p>	<p>○教育に関する3つの達成目標の調査を実施していたときは、「読む・書く」や「計算」の達成率は県平均を下回っていた反面、自己肯定感にかかわる項目については県平均を上回っており、それが本校児童のよさとしてとらえられた。しかし、今回の調査では、自己肯定感が低い児童が増えてきていると推察された。全学級において、友だち同士の関係を深め、学級での楽しみをより感じられる工夫をしたり、教員が児童全員に毎日必ず一声はかけられるように努めたりするなど、あらためて日々の学習活動と学級経営の充実を図っていくようにする。</p>

3 具体的な改善に向けた学校としての取組

* 定期的に学力向上委員会を開催し、月の目標、児童の学力の変容、翌月の学力向上のための実践具体策を話し合い、後、全教職員で学力向上に取り組めます。月の学力向上策を年間計画にして、PDCAを続け、実際に児童の学力を伸ばします。長期休業中の算数特別教室等の運営に努力します。

* 志木市の事業である「生きる力」推進事業で予算をとり、教員を複数配置してきめ細かい指導を行っていきます。夏季休業中には、学年・クラス別に算数特別教室を設け、教員が複数で指導にあたります。校内研修では、志木市の委嘱を受けて、国語科の言語活動の充実を手段として思考力・判断力・表現力を身に付けさせさせる研究を進めていますので、これを生かし、児童の目に見える学力の向上を推進します。教員の授業力向上に関しては、本校独自のチェックポイント表を作り、定期的に自己評価をしていき、まとめ、次の飛躍に努めます。今後、年度のまとめの工夫をし、御家庭の学力向上の支援をいただきながら、実際に学力を向上させてまいります。

* 学力向上には、まず、基礎・基本の繰り返し学習や、ある程度の時間をかけての御家庭での見守りも必要ですので、ぜひ手を携えて、子ども達を育てていきましょう。